

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
自主創造の基礎 2 self-independence and creativity 2		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	日本大学への編入を希望する学生のための科目です。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館 2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
「自主創造の基礎 2」では、「自主創造の基礎 1」で培った主体性やコミュニケーション力等を踏まえ、社会福祉学への理解を深め、関心を深化することを目的とする。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・「自主創造型パーソン」の資質を身につけることができる。 ・学ぶことの大切さ、社会の中における自己の役割などについて説明できるようにする。 				
授業の方法				
グループワークやチームワークなど主体的に学修する授業とする。				
学習の成果（学習成果）				
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク等により社会福祉学について多角的な視点をもつことができる。 ・社会福祉学以外の関連学問領域を理解することで横断的な視点をもつことができる。 ・多様な文化、価値観を知りチームワークをすることができる。 				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点を考える 1			
第3回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点を考える 2			
第4回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点を考える 3			
第5回目	ワールド・カフェ（N-MIX）			
第6回目	ワールド・カフェ（N-MIX）			

第7回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点から社会的課題を調べる 1	
第8回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点から社会的課題を調べる 2	
第9回目	社会福祉学、国際関係学、生産工学の視点から社会的課題を調べる 3	
第10回目	グループワークでの議論・報告 1	
第11回目	グループワークでの議論・報告 2	
第12回目	キャリアパス教育 1 キャリア形成について考える	
第13回目	キャリアパス教育 2 自分のキャリア形成について考える	
第14回目	プレゼンテーション 1	
第15回目	プレゼンテーション 2	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		『“自主創造”のためのLearning Guide』(日本大学FDガイドブック)及び長江庸泰作成の“デジタルテキスト[自主創造2019年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年) 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。